

# 特集

座談会

## 魅力ある国保診療所づくり

- 司会・進行 **中村伸一** 国診協診療所部会部会長、福井県・おおい町国保名田庄診療所所長  
**森 祐樹** 福井県・国保池田町診療所医師  
**和田智子** 秋田県・にかほ市国保小出・院内診療所所長  
**前川恭子** 山口県・萩市国保むつみ診療所所長  
**澤田弘一** 国診協歯科保健部会委員、岡山県・鏡野町国保上齋原歯科診療所所長



国診協・診療所部会の設置を受け、第48巻第2号において国保診療所の抱える多くの課題と、それいかに組織として対応していくべきかについての包括的な話し合いを特集した。それらの討議をベースにしながら包括的な話し合いの第2弾として、地域包括医療・ケアの最前線にある国保診療所において、具体的にどのような課題に直面しているのか、どのような事項が解決されれば魅力ある診療所が実現できるのか、あるいは、どうすれば地域で生活することの厳しさのなかから楽しさを見出すためのライフスタイルを構築することが可能なのかなど、さまざまな課題が浮かび上がってくる。

さらに、国診協としてのサポート体制に望まれることは何か、国保診療所が望んでいる地域連携とはどのようなものか、そのための課題は何かなど、より前向きに忌憚のない意見を出していただきたい。

秋田県・にかほ市国保小出・院内診療所

- ①対象人口：小出地区約1,500人、院内地区約2,000人
- ②高齢化率：34.70%（2017年1月現在）
- ③最寄りの総合病院までの時間：救急搬送先3病院は車で30分程度（1病院のみ歯科口腔外科あり）



和田智子氏

福井県・おおい町国保名田庄診療所

- ①対象人口：2,445人
- ②高齢化率：37.6%（2017年3月現在）
- ③最寄りの総合病院までの時間：杉田玄白記念公立小浜病院まで車で約25分（診療所に歯科（民間）併設）。



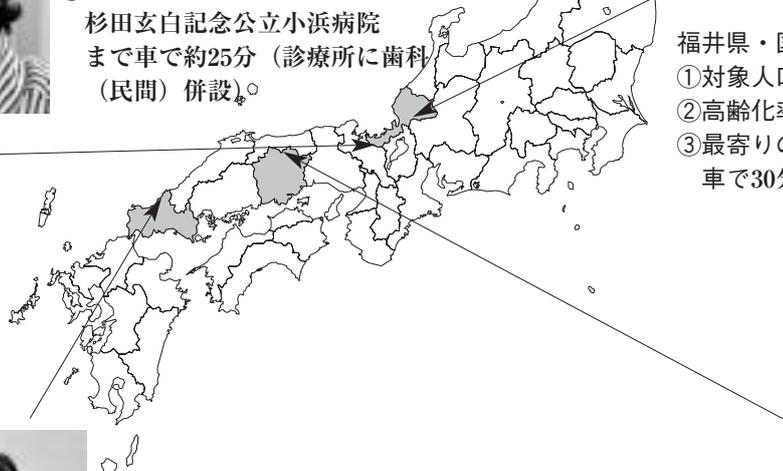
中村伸一氏



森 祐樹氏

福井県・国保池田町診療所

- ①対象人口：約2,700人
- ②高齢化率：42.93%（2016年12月現在）
- ③最寄りの総合病院までの時間：車で30分程度（歯科あり）



山口県・萩市国保むつみ診療所

- ①対象人口：約1,400人
- ②高齢化率：約50%（2016年9月現在）
- ③最寄りの総合病院までの時間：萩圏域車で30分（歯科なし）、山口圏域車で1時間（歯科あり）



前川恭子氏



澤田弘一氏

岡山県・鏡野町国保上齋原歯科診療所

- ①対象人口：約1,500人
- ②高齢化率：42.96%（2016年12月現在）
- ③最寄りの総合病院までの時間：歯科のない3総合病院まで車で30分、歯科のある総合病院まで車で1時間30分

## 地域包括医療・ケア研修会企画 「診療所は面白い」から人材を発掘

中村 国診協の会員の中では、診療所の医師は少数です。また、大部分はソロ・プラクティスで診療しているため、なかなか外に出にくい状況があります。そんな中でも、われわれ国保診療所をアピールしようと、平成23（2011）年1月の地域包括医療・ケア研修会において「診療所は面白い」というパネルディスカッションを企画し、その後は毎年開催しています。毎年3名の診療所の医師の人選を行っている中で、素晴らし

い人材にも関わらず、まだまだ発掘していないことをわれわれ自身が気づかされました。

本日は、最前線で活躍されている4人の国保診療所医師、歯科医師の方々にお集まりいただいて、「魅力ある国保診療所づくり」を大きなテーマとしてお話していただきます。まずは、診療所に勤務するきっかけについて、森先生からお話いただけますか。

## 初期研修での地域医療で、名田庄診療所に

森 私は奈良県立医科大学を卒業して、福井県済生会



病院で初期研修を受けました。初期研修では、全科をローテーションしました。この際、中村伸一先生がおられる名田庄診療所で地域医療を1か月研修し、大いに魅力を感じました。また福井県には救急で有名な林寛之先生がおられます。せっかく福井に来たので、後期研修ではその2つを合わせた福井県総合医コースという福井県庁のプログラムを選びました。このコースは4年間のうち2年間はへき地で、2年間は県立病院や地域中核病院に行けるという内容でした。福井県立病院の救急科で研修している際に当時の上司であった林先生から「君たち2人で池田診療所へ行きなさい」と言われました。実は私の妻も医師なのです。

中村 そうですか。プログラム責任者の林先生に「行きなさい」と言われたのですね。

森 そうです。

中村 それは何年目ですか。

森 医師になって3年目です。そして、4年目に診療所に赴任しました。

中村 そうでしたね。

森 赴任時は先輩の医師がいました。池田町から毎年のように「来年もいてください」と言われ、ずるずると勤務を続けました。その後、先輩の医師もいなくなり、赴任から5年目に「当面、池田町で勤務し続けよう」と思い、現在に至ります。

中村 森先生ありがとうございました。和田先生いかがでしょうか。

和田 私は秋田大学医学部を卒業して、外科系も内科系も回れるフルローテート研修をしました。埼玉県が実家なので、東京の国立立川病院でフルローテートさせてもらい、東京医科歯科大学の第3内科に入れてもらいました。そこで循環器グループに入り、循環器を担当していました。しかし心臓カテーテル検査の仕事が多く、放射線の影響で私自身の白血球も3,000を切る

ようになり、このままでは死んでしまうと思って、秋田に戻ろうと思いました。

中村 患者さんよりもご自身の健康が危なかったのですね。

和田 そうです。

中村 心臓カテーテル検査は、断続じゃなくて連続で放射線浴びますからね。

### 前任の医師がいた診療所で、 地域の引き継ぎができた

和田 どうしようかと思っていたところ、秋田の友人から、秋田県厚生連の由利組合総合病院が新しく建て直す情報を得て、一時、由利組合総合病院に勤務して、循環器を担当していました。ちょうどそのころ、今の診療所の前任の医師が体調を崩されて、1年間ほど診療所のお手伝いに行かせていただきました。同時に埼玉県内で在宅医療などいろいろと経験をさせていただきました。そして、いよいよ今の診療所の後任の医師をと要請されて秋田へ戻ってみると、その診療所の前任の医師は復活され、3年間はその前任の医師と一緒に診療を担当していました。

中村 3年間一緒に診療して、いい意味での引き継ぎができたのですね。

和田 そうですね。行ったり来たりして、最終的に秋田の国保診療所に勤務しました。

中村 和田先生、ありがとうございました。ところで私は自治医科大学の12期生ですが、前川先生は15期だから3学年後輩になりますね。

前川 そうです。

中村 前川先生は義務年限の9年間どのように過ごされたのですか。

### 町医者を志して、 ひとり診療所へ赴任

前川 山口県の場合、初めの2年は初期研修で次ぎの3年は地域の病院です。その後1年が後期研修で最後の3年が地域のひとり診療所というパターンです。私は、最初の2年の初期研修医のときに出産をして、育児休暇を取りましたが、当時はいろいろとバッシングも受けました。そして地域の病院に行き、3年では短いと思ったので5年間そこに勤務させてもらいまし

た。その後、後期研修に行った時、義務年限が半年しかなかったのですが、そもそも地域のひとり診療所で町医者をやりたいと思っていたので、今勤務している「むつみ診療所」に赴任しました。「ああ、ここだ」と思いながら、そのまま居座っています。

中村 前川先生、ありがとうございました。澤田先生、いかがでしょうか。

## 歯周病専門医が、 歯科保健を希望して診療所へ

澤田 私は岡山大学歯学部卒業後、歯周病の専門医になりたいと思って歯周病講座に入り、最終的には専門医も指導医もとりました。その後、いろいろな勤務地に行き、赤字経営の病院の歯科を担当しました。そこで赤字の病院歯科を立て直すことができなかつたら、自分は終わりだなと思いながら、患者さんや住民にアンケートを行い、近隣の歯科医師を訪ねて経営的にも医療的にも仕事を一生懸命行っていました。しかし、自分が治療した人が他のところが悪くなって再来院することでその人を治していないことに気づきました。

その後、出張先の自治体が経営している国保診療所があり、その村長と大学の教授と私で話をしていたら、村長から「全住民を対象とした保健をやってもらいたい」と言われて、私は「それがやりたいことです」と答えて、保健も治療もする歯科医師として赴任することになりました。

中村 その当時、歯科保健というのはあまり聞き慣れない言葉だったのではないのでしょうか。

澤田 従来から1.6歳健診、3歳児健診、学校健診など、健診を行って指導することはありました。私は妊婦のころや生まれた時から歯科保健に関わり、その人の人生において歯医者さんに行かないようになってくるまで、突き詰めたいと思っていました。

中村 つまり、首長の考えと一致して大学教授も承認して赴任したのですね。

澤田 そうです。

中村 中山間へき地には一時期は勤務しても、長期にわたって勤務しようと思うには、私の場合は相当覚悟をしなければなりません。へき地ではソロか2人かという、小さな規模で診療するわけです。設備の



面からも、大きい病院だとできたことが、小さい診療所だとできなくなることが多くあります。

そういうところを乗り越えて長く勤務してきた今、振り返ってみると森先生、どうですか。

森 私は今の診療所に勤務して9年目です。長くなればなるほどいいこともあるということを、先輩の医師から聞いていました。初めて勤務した頃の患者さんの中には亡くなった方も多くいます。一方、そのころ子どもだった患者さんが成長して大きくなってきました。同じ場所で診療を続けていることでいけばいるほどわかってくることもあります。また、周りの病院との連携でも、「池田町は森先生がいるから送ろう」という逆紹介も増えました。地域内での連携も当たり前のようにスムーズにいきます。

中村 森先生は今、何歳ですか。

森 39歳です。

中村 39歳の時点でこれだけ長くひとつの診療所に勤務している医師って、日本全国探してもそんなにいないと思いますよ。他の医師が得難い経験になっていると思いますね。

## 地域住民を専門に診ることが生きがい

森 地域に赴任する時に「おまえ、そんなんでいいんか」「大丈夫か」「森先生は何を専門にするんだ」とよく聞かれます。こういう時「地域が専門です」「プライマリ・ケアが専門です」と答えます。地域を専門で診ていることが、私の生きがいでもあります。

中村 なるほど、そうですね。私も地域に赴任する際、自分のことを心配してくれる人ほど「専門を何か持たなければいけない」「そんな田舎の診療所で埋もれるつもりか」とよく言われました。何も語ってくれない人はむしろ不親切で、親切な人ほど私のやりたいこと



をみんな否定します。しかし、多くの人から否定されればされるほど、反対におもしろいのではないかと感じた記憶があります。

森 国保診療所は引退してから行くところとも言われたことがあります。

中村 私も、若いうちに行くところじゃないと助言されたことはあります。和田先生はどうですか。

和田 初めのころは迷っていましたね。私は循環器を専門にしていたので、生活習慣病に対する指導等に関しては、比較的入りやすかったこともあります。

中村 川でたとえていうと、若いころの和田先生は下流で心筋梗塞を起こした患者さんに心臓カテーテルで治療していましたが、今の和田先生はもっと上流、つまり心筋梗塞を起こさずずっと前の段階から手をつけることで、別のおもしろさを見つけたわけですね。

和田 そのとおりです。

中村 よくわかります。前川先生はもともと地域医療をやりたかったのが育児休暇をとって、義務年限がその分長くなったということでしょうか。

前川 義務年限の9年間で育休分だけ延びるということです。

中村 そこで比較的若いころに診療所に行くわけですよ。

前川 30歳前半ですね。

中村 私は義務年限の3年目で行ったので28歳でした。やはり、30歳前半で地域に長くしようと決意する人は少ないと思います。

前川 長くいる人はいなかったですね。義務年限が明けたらほとんどの人が都市部に戻るようです。ただ、私がむつみ診療所に赴任した時、萩市近郊の国保診療所で、義務年限を明けてもそのまま残る先輩医師が2人いました。

中村 それは、ご自分のやりたいことを先にやってい

る、ある意味ロールモデルの先生方ですね。

前川 そうですね。具体的にそういうように勤務できることもわかりました。

中村 その先生方は今でもおられますか。

前川 一人は自治医大の先輩で、私の上司です。ひとり診療所では、10年勤務しないと患者さんの流れがわかりません。10年を超えた今、新しい風を入れて、私が見逃しているものを若い先生に見直してほしいと思っていますが、きっかけがつかめなくて長くいます。

中村 なるほど。10年ぐらい勤務していると、自分の失敗も見えてきますよね。数年ぶりに検査した患者さんの病気を自分で見つけて、過去の見逃しに気づくことがあります。逆に自分がやったことが短期的にはわからないが長期的に考えるとよかったということなど、ずいぶん後で見えてきます。

### 医師とのちょっとした会話から、人生が変わった患者さん

前川 DV被害の奥さんたちを診察している時はわからなかったのですが、何となく変だと思って、その奥さんたちに投げかけた言葉に反応して、後になってあの時言った言葉が、彼女たちが前向きに動くきっかけになったということがありました。

中村 わかります。不登校傾向があることを私は全然知らずに小学校2年生の女の子の捻挫治療をしている時に「学校おもしろい？」と包帯巻きながら聞いたなら「おもしろくない」と言い、よく聴くと友達にいじめられているようでした。そこで私は「お勉強好き？」と聞くと「お勉強好き」と答えてくれたので「よかったね、お勉強好きならそれだけでいいじゃない」と言ったようです。

前川 私たち医師は、そのことは忘れていきます。

中村 まったく覚えていませんね。10年くらい後になって、その子の祖母や母親が「あの時、先生が言ってくれたからあの子の不登校は治りました」と言ってくれました。また、小学生時代から学校健診などで診ている男の子が、中学生のときに胃腸かぜで点滴を受けていました。その隣のベッドの患者を救急車に乗せる時、「今から、救急隊の人たちと別の患者さんを運ぶから、ちょっと留守にするね」とその子に言葉をかけました。救急隊員の活躍する姿を見た影響があって、

その子は今、救急救命士になっています。

前川 そこがおもしろいところだと思いますね。

中村 澤田先生、いかがでしょうか。

澤田 今の話では、職場体験で中学生がその後、歯科衛生士になりましたとか、当診療所の歯科衛生士の娘さんが歯科衛生士になったりすると、涙が出るほどうれいすね。

中村 うれいすすよ。その地域に長くいないとわからないことすね。

澤田 そうすね。しかし私の場合、契約は2年でしたので、長くいようとは最初はまったく思っていませんでした。

中村 2年間とは短いですね。

澤田 私どもの出向先は2年交代で代わります。

中村 大学の医局の人事すね。

### 診療所の内外の仕事に携わり、 地域の足りない部分を気づく

澤田 赴任当初、成功事例を町に持ってきましたが、成果が上がりなかつたので引くに引けない状態がありました。次に医局からの派遣のため、毎週金曜日は大学の医局に戻りました。そのころは大学でも診療して、教授やほかの人たちとも話すルーチンワークがあり、相談する相手は常にいました。そして歯科保健を行うことになり、いろいろな会議に出席できるようになりました。その後、岡山県内の新庄村や富村そして旧奥津町に同じような国保歯科診療所を新設する話が持ち上がってきました。

中村 澤田先生は国保歯科診療所の設立に携わってこられて、しかも他の自治体の歯科診療所のコンサルトもなさっているということすね。

澤田 そうす。今10軒ぐらいは携わっています。また、病院歯科の設置にも関わっています。

中村 今のお話だと、澤田先生は内部のことをやりながら外部のこともやっていたのは、その都度、興味が変化することもあって、それももしかして長く居続けられた理由のひとつすでしょうか。

澤田 そうすね、退屈にならなかつたからすでしょうか。また、内からだけでなく、外から見ることによって、地域の足りない部分によく気づかされます。



### 看取りは患者さんとご家族への 声かけや雰囲気づくりが大切

中村 次に最も力を入れていることと課題について、お話ししていただけますか。森先生は多くの患者さんの看取りを行っていますが、いかがすでしょうか。

森 私は看取りには力を入れています。患者さんご本人やご家族に対する声かけなどは、相当練習し、勉強し、工夫しています。今でもうまくできている部分もありますが、高めていけたらいいと思います。

中村 インフォームド・コンセントできちんと治療過程や予後などの説明することは必要すですが、言い方や雰囲気が大切すよ。その点を森先生は確かに大事にされていますね。

森 たとえば私はドライアイで目が赤いのですが、それを見た患者さんやご家族が「森先生は寝不足なのに頑張っている」と思うこともあります(笑)。

中村 すごいすね、森先生自らの体質をも利用しながら患者さんの信頼を勝ち得ているということすね。

森 人情の世界すね。そういうことが患者さんやご家族との良い関係構築の一端になると感じています。また、今私どもでは福井大学の依頼により、地域での医学生と看護学生との合同実習が始まっています。

中村 医学生と看護学生の合同実習すですか。

森 そうす。合同実習は、昨年からスタートしました。特に看護学生さんは熱心で真面目にいろいろなところをよく観察しています。

中村 医学生と看護学生の合同実習は、聞いたことがありません。同時に医学生と看護学生が来ている時はありますが、通常は別枠すよ。

森 そうすね。福井大学の先生方があらかじめ計画して同時に実習に入るようにしています。実施してみると思った以上におもしろかつたすね。



中村 合同実習とは、学生時代から多職種連携を経験することでしょうか。

森 そのとおりです。医学生と看護学生の見方や感じ方が違い、最初はお互い戸惑いがありました。短期間でも徐々に連携ができていくところは、大変おもしろかったですね。われわれスタッフもよい刺激を受けました。

中村 後期研修医の話はどうですか。

森 そうですね。夫婦で診療所を運営していますが、主に私が研修医の面倒をみています。

中村 夫婦で医師ですが、森先生は診療所の所長を奥さんに譲りましたね。

森 そうですね。

中村 一つ年上の奥さんが家庭でも職場でも上司ということですね。

森 そうです。私が医学生の頃に妻は2年先輩でした。

中村 そうですか。しかも、森先生の奥さんは診療所の所長に就任してやる気を出していると聞いています。

森 私の妻は30歳代前半の時に3人の出産と子育てで育児休暇を利用しました。私の失敗した点などもみていますし、今は診療所の所長として私のやってきたこともすべて把握しやがいをもち取り組んでいます。

## 男性よりも女性の方が管理職に適任

中村 そうですね。やはり男性はどちらかというところ集中力はありますが、そこしか見ていないところがあります。ある脳科学者によると、「男性は小学校の小さな学習机を飛び回っているが、女性は大きいテーブルにいろいろなものを乗せて、そこで調整している」と述べています。つまり、女性はもしかすると管理職に向いているのかもしれないですね。

森 なるほど、そうですか。

中村 森先生は、今は何を頑張ってみようと思っていますか。

ますか。

森 これまでは自分で勉強したり、話を聞かせていただいたりということが多かったのですが、たとえば今回の地域医療誌の座談会に参加させていただいたり、1月の地域包括医療・ケア研修会において発表させていただいたり、また、これまでの診療で気づいたことをまとめて発表できればいいと考えています。

中村 これまでずっとインプットだったけど、今度アウトプットをしようと思っているんですね。

森 そうです。以前は診療所の仕事に追われて多忙でした。現在は私の妻も診療所の運営に注力することができるようになり、大変助かっています。

中村 森先生、ありがとうございます。和田先生は、今、最も力を入れていることや課題についていかがでしょうか。

## 「大きな井戸端会議」という 子どもの生活習慣病ネットワーク会議

和田 生活習慣に関しては、子どもたちに力を入れています。平成17年から毎年アンケートを実施しています。また、平成20年度に国協協調査研究事業で「子どもの生活習慣病対策ネットワーク事業」を実施しました。その事業で私どもの診療所なども現地訪問ヒアリング調査を受けさせていただきました。子どもたちは教育されて生活習慣についても改善できるようになります。生活習慣が乱れていることは大人の責任だと思います。

そして学校の教師や学校教育課・健康推進課、子育て・長寿支援課などの行政担当者、PTA会長、子育てサポートの方や食生活改善推進員などにも参加していただき、ネットワーク会議を毎年1回3月に開催しています。その会議は「大きな井戸端会議」と私は言っていますが、それを今頑張っているところです。

中村 それはおもしろいですね。生活習慣病予防は子どものころからということですね。先ほどの川のたとえというなら、上流というよりも水源に近いところにアプローチしていますね。

和田 秋田県にかほ市のような地方でも、親は自分が仕事に行くときに、コンビニでパンや牛乳を買いますが、子どもには食べさせないで保育所へ子どもを預けます。そこで保育士さんたちが見かねて給食時間を早くするなどという対応をしていることを知りました。

私は「何とかしないといけない」という気持ちで、健康推進課とともに今そのことについて取り組んでいるところです。

## 今、大切なことは、おせっかいをすること

中村 同じように子どもの生活習慣病対策を実施しているところは、香川県綾川町国保綾上診療所の十枝先生ですね。ある意味、おせっかいかもしれませんが、すべてを自己責任としてしまう風潮の今の世の中に欠けているのはおせっかいだと思います。前川先生がやぶ医者大賞を受賞された時、私は審査員だったのでいろいろと資料を見させてもらいました。

前川 ありがとうございます。

中村 私は1票しか持っていませんが、審査員の皆さんの意見が一致したものと思います。前川先生は、何か最も力を入れていることはありますか。

前川 昨年7月より山口県医師会の理事を任されました。今、その理事の仕事がおもしろく特に力を入れています。

中村 山口県医師会の理事の仕事の中で何を担当されていますか。

## 学生や研修医の歓迎のため、多職種連携の飲み会を企画

前川 母子保健、看護学校、地域包括ケア、そして厚生局の指導が入る時の立ち合いをすることや、いろいろな研修会の司会を担当しています。いままでは診療所の周辺のことをしていましたが、県医師会や日本医師会にまで行き視野が広がり、今までやったことのないことを任せられたりします。それがおもしろくなっています。それに、多職種飲み会をよくやっています。

中村 多職種飲み会は、どういうメンバーですか。

前川 研修医や学生が実習に来る時に合わせて、飲み会を企画します。医学生・看護学生の合同が最近が多いので、多職種連携と思ってケアマネさん、養護教諭、作業療法士、訪問看護師、保健師、市民病院の医局秘書さんなど、合わせて10人から20人で行っています。

中村 そのぐらいの人数がいいですね。学生や研修医に「何が一番楽しかった？」と聞くと、彼らは「飲み会が一番楽しかった」「地域医療で行ったあの研修は

楽しかったな」と言ってくれて、学生や研修医の心に残っているものと思っています。そうするとまた地域に行こうかな、地域は悪くないな、ということになると聞きます。前川先生、ありがとうございました。

澤田先生はケアマネジャーの資格を持っていて、消防団の話もありましたが、今、力を入れていることはありますか。

澤田 私は歯周病専門医で、30歳代や40歳代の保健を行うため、事業所や役場において講話をし、試供品の歯ブラシや歯磨き剤などを渡して指導をしていました。それと同時に子どもたちの保健も行っていました。子どもたちへの保健は、学校健診や授業、PTAや学校の教師へのアプローチを行います。3世代、4世代で住んでいる地域では、家で子どもが話をすると家族の皆さんはよく聞いてくれます。一方、会社では社員の方々は神妙にして聞いてくれますが、家に帰っても家族に話してくれないので、効果はいまひとつでした。したがって、子どもたちに力を入れるようになり成果が上がってきました。介入当初は毎月おこなっていた研修会や健診も、今では健診は年1回、授業も年2回になり、PTAの講習会は年1回しか開催しなくても良い状態を維持できるようになりました。

地域住民への保健では、住民の皆さん方が自ら保健について考えていただくことで住民のやる気を出してもらいます。たとえばPTAで子どもがむし歯にならないようにするにはどうしたらいいのかを、私どもから材料を提供するのではなくて、地域住民の皆さんに考えていただくグループワークのような場の設定を行っています。

中村 トップダウンでやろうと思ってもうまくいかないことが、ボトムアップでやっていって、そこに多少の修正を加えていくという形ですね。

澤田 そうですね。専門職として情報だけを提供する役割を学びましたので、他の会議などでも同じように携わっていこうと思っています。

中村 なるほどそうですか。先ほどの和田先生の話と通じるものがありますね。みんなで大きな井戸端会議で決めていくことでしょうか。

澤田 そうですね。

中村 頭ごなしに「私は循環器の、あるいは歯科の専門医だから栄養は、あるいは口腔ケアはこうしてくだ



さい」ということではうまく進まないということでしょうか。私もケアマネジャーの資格は持っていますが、実際にマネジメントをしたことはありません。しかし、澤田先生は本当にマネジメントを行っていますね。

澤田 ケアマネジャーは、その地域で私1人でしたので、ケアマネジメントの実働を行っていました。最終的にはやはりお金の話ばかりになりますので、会議の場で家族同士が言い合いになったりしました。歯科医師として訪問歯科診療を行っている時は、皆さん心穏やかに診察料を支払ってくれます。しかし、ケアマネジャーでは100円、200円で激しい言い合いになります。そういう現状がわかりましたので、歯科医師としてお金を請求する時も、きちんと説明しなければならぬと思っています。

中村 なるほど。澤田先生は一時期何人ぐらいマネジメントされましたか。

澤田 一時期、20人ぐらいでしょうか。

中村 歯科診療を行いながら同時にケアマネジメントしていたのでしょうか。

澤田 そうではありません。休みも歯科診療が終わった夕方からもありますし、昼休みもあります。また、往診に行ったついでに他のところにも寄ってくることをしています。

中村 時間的にはかなり調整していたのですね。それでも両立は難しいでしょうね。うまくいっていただけか。

### ケアマネジャーを増やすため 試験対策の勉強会を始める

澤田 うまくできなかったもので、いろいろご迷惑をかけてしまいました。そこで、ケアマネジャーをこの地域にも増やそうと考えて、社会福祉士の方々や当時の

ホームヘルパーの方に対して、ケアマネジャー試験対策のための勉強会を始めました。その後、1人合格しましたので、仕事の多くをお任せできるようになりました。その勉強会は今も継続しています。

中村 地域住民との交流では、澤田先生は消防団の活動もされていますね。

澤田 赴任の当初、診療所の横に官舎を建てていただきました。そして専用の携帯電話も渡されて、すでにこの地域の住民になっていました。そしてある日突然、消防団員の辞令がありました。そして自然に呼び出しがあって、服や靴などの寸法を測られてしまいました。自動的に消防団に入団したことについては、断る気持ちはありませんでした。消防団員の半数は役場職員です。役場職員との交流にも活きることになり、すぐに馴染めました。

中村 澤田先生ありがとうございます。実は今度、名田庄を中心に健康づくりを情報発信するNPO法人設立を計画中で、私はその理事長になる予定です。おもしろい地域にいと、仕事の枠を越えたその地域での楽しさが出てきますよね。ただし私は公務員ですので、無報酬です。森先生、地域でのワーク・ライフ・バランスについては、いかがでしょうか。

森 私はアウトドアが大好きでいろいろな所に出ていくことがあります。現在、所長である妻を支えるという意味で、家事をできるだけ手伝うようにしています。

中村 たしか、森先生は学生結婚でしたね。

森 そうです。私が6年生で、妻が研修2年目の時に結婚しました。

中村 森先生は奈良県立医大出身で、福井県の総合医養成コースだったので、研修医の時から福井県にいます。森先生の奥さんは何の縁もゆかりもない福井県に

来て、子育てをしながら一緒に医師として働くことはとても大変なことだと思います。たとえば親元となるような病院は、森先生なら研修した福井県立病院や済生会病院がありますが、奥さんには何もありません。

森 しかし私の妻は、自分から積極的に電話をかけて研修先を探しました。その中でいくつかの病院でたとえば、リウマチ、整形外科、糖尿病、エコー、胃カメラなどを勉強させてもらいました。現在はつながりもでき協力も得られやすくなっています。

中村 つまり、森先生の奥さんは子育てをしながら、しかも縁もゆかりもないところに赴任して、卒後年数の割にキャリアが少ないので、ご自分で電話をかけて交渉して研修を受けさせてもらった状況から今、軌道に乗ってきて、逆にやりがいを感じられているということでしょうか。なかなかできないことだと思います。

### 診療所の運営は、 夫婦二人のバランスが大切

森 診療所の所長にやりがいを感じて輝いていると思います。私の方もいろいろな所に出ていくことにより、お互いに新鮮な気持ちで仕事も生活もいきいきします。

中村 夫婦のバランスをとっておられることが、今、よくわかりました。森先生、ありがとうございます。和田先生はいかがでしょう。

和田 私どもの地域には以前、TDKの工場がありましたが今は閉鎖されています。私が住んでいる住民の皆さんはまだ大家族も残っており、仲がよく、ごみの集積場所の掃除当番や神社の当番も公平に順番で行っています。神社当番では、年末年始は神社にお参りに来る人がいて、お御酒を出したりします。

前川 氏子さんでなくても神社の担当をするのですか。

和田 そういうことがある地域で、おもしろいところですよ。

### 地域の神社も地域住民たちが守る

中村 その地域の神社を地域住民で守ることはいいことですね。そういったことを通じて、地域の絆が育まれるのでしょう。

和田 そうです。しかし、女性の方は夜の当番にならないように、神社の総代たちが考えてくれたりしています。

中村 和田先生もその神社のメンバーに入っていますか。

和田 入っています。私の当番は早朝の5時からでした。

中村 そんなに朝早くから当番があるのですね。和田先生、ありがとうございます。前川先生の萩市でのワーク・ライフ・バランス、つまり、仕事以外の地域とのつながりについてはいかがでしょうか。

前川 私の地域は典型的な中山間地域で、約16年前に赴任しました。その当時、子どもが小学校に入るくらいでしたが、萩市の中心部に実家がありましたので、診療所で仕事をして子どもは実家に預けて、そして仕事から帰って晩ご飯食べさせて寝かせて、また医師住宅に戻るといった生活をしていました。

中村 車でどのくらいかかりますか。

前川 30分くらいです。子どもが中学校に入る前に、先輩医師から、「女の子だから中学校入る時、母親は近くにいたほうがいい」と言われて、自分の思春期のころを思い出しました。そこで実家から通うようにしました。診療所のある地域よりも、実家がある萩市中心部での地域の活動が主で、ごみ出しや近所の認知症の方が実家に来るのに対応しています。

中村 今、大変重要なことが出てきましたね。私は、最初赴任したときは新婚の妻と2人で名田庄に来て、そこで2.5人子どもをつくりました。

前川 2.5人ですか。

### 地域医療の活動は、 各人の生活スタイルでいい

中村 後期研修で福井市に戻ったときに産まれたので2.5人です(笑)。そして2回目に名田庄に来た時は、単身赴任でした。当初は2~3年で戻ろうと思っていましたが、すでに17年になっています。地域に家も建て墓もつくり、田んぼを耕して牛を飼育して、地域にどっぷりつかっている医師もいれば、ご自分が勤務する町ではなく、少し離れた町に住んでいる医師もいます。それはそこにどっぷりつかからないようにあえて少し距離を置いて俯瞰して自分を見るためということ

す。つまり、その人の生活スタイルにあっていれば良いと思います。澤田先生は、地域で何にどっぷりつかっているほうでしょうか。

澤田 私どもの地域は標高が600メートルもあって、気圧が違います。また、冬の夜には星が降るという表現をしたくなるような自然が豊かで、山の向こうではカッコウが鳴いています。またカブトムシをとってきて、それを繁殖させたりしています。

前川 すごいです。よく繁殖できましたね。

澤田 今、土や餌がいい物がありまして、誰でも繁殖することができます。そして、バザーの時にカブトムシも持って行って無料で子どもたちにあげていたら、子どもたちは私を「カブトムシのおじちゃん」と親しみを込めて言ってくれました。自然にどっぷりつかっています。

中村 「カブトムシのおじちゃんって、歯医者さんもやっているんだ〜」なんて子どもたちに言われたりして(笑)。今、澤田先生が言われた地域の自然については、私の地域も名田庄の桜や螢があります。そして私の地域は、陰陽師で有名な安倍晴明の子孫が応仁の乱のときに京都から逃れて、天体観測をして暦をつくっていた土地です。夜空の星は特別に美しいと思います。そういう所はやはり田舎ならではだと思えます。そして、地域での人間関係が大切ですよ。

### 中山間へき地での子育ては、 地域住民が手伝ってくれる

澤田 私の子どもが誕生した時に、「みんなで育てていきましょう」と地域の方々に言っていたら、本当に驚きました。その後、地域のお母様方やお父様方が何をしても手伝ってくれます。それが一番よかったですね。

中村 地域の友達や移住してきた人におもしろい人たちがいます。私は、そういう方々とNPO法人を創ろうと今、計画しています。

次に国診協の診療所部会では、これまでは主に毎年1月に東京で開催される地域包括医療・ケア研修会で「診療所は面白い」という企画運営を行ってきました。他にどんなことを企画したらおもしろいと思いますか、澤田先生いかがでしょうか。

澤田 国保診療施設で歯科診療所は約190か所ありま

すが、閉鎖するところも多くあります。閉鎖の理由はやはり自治体と診療所とのコミュニケーションがとれていないことだと思います。

中村 そもそも、コミュニケーションがとれていないのですね。

### 自治体と直診とのコミュニケーションを 国診協がサポートしてほしい

澤田 はい、そうです。病院では事務の方を含め、医療施設に従事している人数は多数いますが、診療所の場合は1人で運営しているので自治体側とのコミュニケーションをおろそかにしがちです。赤字経営であっても、どういつもりでやっているのかという意見交換も双方でできていません。医療職は、そういうことが苦手な人が多いのです。そこで国診協で、その間に入ってコミュニケーションを行う取り組みができればいいと思っています。特に診療所では、医療職が少ないため、関係性を構築する努力や方法および時間が少ないように思います。

私は調査研究事業を受けて事業を通じて、自治体や地域の人々とのコミュニケーションが必要だと気づかされました。その後、その活動やその会議体があるままに残るとということにも気づきました。自治体と医療施設の間に入るには第三者的で権威もあるような国診協が仲を取り持つことによって、医療施設と自治体との関係性が良くなると思います。

中村 澤田先生の話されたとおりです。調査研究事業については、私どもも何回も受けていますが事業を受けることによって、自分たちの見直し、活性化につながり、結果的に自分たちのチームを再構築することになります。

澤田 調査研究事業の実施過程で診療所方針、治療内容および保健の必要性も自治体側に伝えられますね。

中村 そうですね。和田先生は毎回研修会、国保学会、現地研究会など出ておられますが、診療所部会や国診協全体に期待することは何かありますか。

和田 私は毎回私と私の診療所の1人、そして健康推進課や市民課など行政の方から1人という3人分の予算を獲得していました。しかし、残念ですが来年の予会は2人しか行けなくなりました。

中村 私どもは福井県国保連が事務局の福井県国保診

療施設研究協議会で、市町村役場の予算に関係なく補助しています。復命書も不要で、そのかわり出張ではなく休暇扱いとなります。役場も研修会や学会などの費用を出してはくれますが、出張扱いなので復命書を書かなければなりません。

和田 確かに、復命書の提出は大変ですね。

中村 さて、ここからはフリーでいきましょうか。何かありますでしょうか。たとえばメーリングリストを作るとか、書籍を刊行しようとかどんなことでもけっこうです。

### 市町村から予算を出してもらうためには、どうすればいいのか

森 市町村役場から予算を出してもらうには、どのようなやり方がいいのか、アドバイスをいただけたらありがたいです。

前川 そういう時、今までどのようにしていましたか。

森 今までは役場の上の方に要望を聞いていただいてやっていただいています。たとえば、ある部署の上司に直接話し、それでだめならそのまた上司に言うとか働きかけてくれるとか、そういうルートがあります。

中村 いろいろな人間関係の力学を理解しているんですね。

森 そうですね。小さいところなので。

和田 診療所は役場の組織図のどこの位置にありますか。

前川 自治体によって違いますね。

森 私どもでは健康福祉課長が診療所の事務長です。診療所長は私の妻ですが、妻の上司は副町長と町長です。指示されるのは町長や副町長しかいません。

澤田 やはり日ごろの行動で悟ってもらうことが、日本の文化に合っています。そして物事を決めるのは常に会議ですね。1人の医師が「これが必要です」「研修会に行きたいです」と言っても、1人の意見でしかないのです。そこで会議を自分でつくるのです。

森 しかし、会議は始まる前にすでに内容が決まっています。

中村 自治体の会議の文化は、地域によって違うと思います。あるいは同じ地域でも、ケースによって異なるのかもしれませんが。結果ありきの会議もあれば、議論を重ねて一定の成果物をつくる会議もあり

ますね。

### 予算を通すには会議の長になるか、会議体をつくること

澤田 既存の会議では、会議の長（委員長や会長など）になることが大事です。長になると、その委員会が始まるずっと前から、事務局の方々からの多くの情報、協議事項、進行方法、さらに会議のまとめ方などの話があり、仕組みなどがわかるようになります。また、長になれない場合は、自分で会議体をつくるのです。その会議体で出た意見を行政に提案すると意見が通りやすくなると思います。

中村 いいですね、澤田先生が話されたノウハウを話し合う「場」があったらいいと思いました。

ところで、私は市町村合併の前は保健・医療・福祉の統括責任者でした。診療所長と保健福祉課長を兼務してましたので、介護保険、国民健康保険、老人保健、介護保険サービス事業や診療所の5つの特別会計を持っていました。ところが、合併後の役割は診療所長だけになってしまいました。そこで、診療所に特化しようと思って、村全体の保健医療福祉から研修医教育に力を入れ始めました。そんな時に、森先生が研修医として来られましたね。したがって、町村合併をきっかけに自分の仕事内容を変えて、エネルギーを別方向に向けることになりました。和田先生、合併で変わったところはどこですか。

和田 合併前の旧町は身近に感じていました。町長が患者さんで、常日頃自分の勤務する診療所に来ていたので、何でも話ができました。しかし、合併後は「にかほ市」になって、本庁は旧象潟町のため私どもの旧仁賀保町の診療所から遠く、直接話せる機会がなくなりました。私もなかなか市長に会いには行かれませんが、にかほ市長や副市長が診療所を訪れるということもありません。

前川 直診はいくつぐらいあって、合併してその後どうなりましたか。

和田 直診は旧仁賀保町に2か所あります。今、その2か所の国保診療所を行き来しています。

中村 実際の本庁との距離感というよりも、心理的な疎外感ですかね。前川先生の所も合併しましたね。対象人口はどのくらいでしょうか。

前川 私の診療所のエリアでは、対象人口は1,500人ぐらいです。

中村 合併して対象人口の枠組みが変わりましたね。

前川 合併前のむつみ村時代は、経済的に厳しい状況でしたので、予算などは切り詰められていました。

中村 地方交付税交付金がこれほど減らされているとは思いませんでしたからね。

### 萩市に10か所の直診を統括する 地域医療推進課が誕生

前川 市町村合併した直後はもともと切り詰めた予算をさらに一律、萩市で9割に落とすことになって、さらにきつくなりました。しかし、萩市のエリアは6町村の合併後、直診が合計で10か所となりました。その後、直診の数が多いのでそれを統括する場所が必要になり、合併して1～2年で新しく地域医療推進課が誕生しました。その長には、自治医大卒業の私の先輩医師がなっています。その方がいろいろなところに目を配るようになり、逆に相談しやすくなりました。また、地域医療推進課の事務方の長がおられますが、地域のことをよく理解される方ですので、話がスムーズです。

中村 なるほど、合併でよくなったケースですね。澤田先生はどうでしょうか。

澤田 ほかの先生方と同じで、合併前は池田町のような感じだったですね。合併後、人口が1,000人から1万5,000人になり15倍に大きくなったので、会議で通すという方向になっていきました。

中村 わかりました。澤田先生、診療所部会でできることについて、何かありませんでしょうか。

### 世の中は、子どもから高齢者まで すべてを診ることを求めている

澤田 診療所の良い面をアピールしたほうがいいと思います。具体的には、私は鳥取市立病院に歯科をつくる話があった時に、「上齋原で行っている医療を人口20万人の鳥取市でやってくれ」と言われました。病院は病気しか診ていませんが、診療所は、人生、生活そして地域を診ています。その人の価値観に寄り添い、生活や食べ物、人生の過去・現在・未来までも診ることになります。すなわち、子どもから高齢者までのす

べてを診ることを、すべての医療機関に世の中が求めていると思います。

中村 澤田先生が言われたことは、小さな地域の小さな診療所で行っていることを都市部にも広げることですね。

澤田 そうですね。鳥取市の病院では生活支援外来を新設し、退院した人が再入院しないように院内・在宅において指導しています。その中で、再入院の原因である虚弱や肺炎に関する歯科として活動しています。

中村 診療所からの情報発信は大事なことです。今、個人で情報発信できる時代です。地域でただただ良いことを行っている、情報発信していないケースも少なからずあると感じます。

澤田 診療所に勤めている方々の重要な役割について、当該地域においても地域外においても知られていません。やはり自分たちから情報発信することが重要だと思います。

中村 地域的には孤立した所において、自分のやることがどうなのかという評価がよくわからないことは確かにあります。そこを評価し、発信していくことが大事ですね。具体的には国診協の会員施設ですらお互いにわかっていないところがあるので、まず、国診協の場から役立つ情報を発信した上で、さらに世の中に広めていく取り組みが必要だと思います。

### 地域医療連携推進法人制度を利用し、 医療資源がない地域へ派遣

澤田 平成29年4月からスタートする地域医療連携推進法人制度があります。この機構に医師や看護師などをプールして、シェアすることができるようになります。その制度を利用して地域の病院の医療職に参加してもらい、医療職の必要な鳥取県のへき地へ派遣する事業を行う予定です。

中村 なるほど。そのエリアはどこでしょうか。

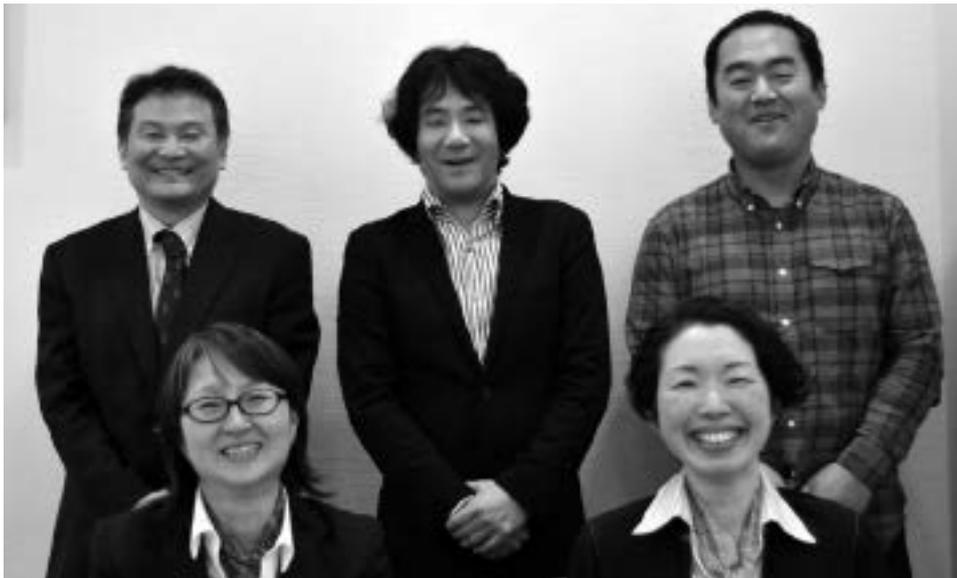
澤田 鳥取県の東部です。

中村 限定しているのですか。

澤田 鳥取市とその周りの4町に限定しています。

中村 全国規模でこういう取り組みができればいいと思いますね。

澤田 診療所は人材が少ないので、地域に来られる医師本人に影響されます。やはり中村先生のような、あ



る地域で成功された医師がいろいろな面倒を見てもらう制度があればいいと思いました。その中で、医師も短期交代したり代診を用意したり、役場と交渉したりしていただきたいと思います。もう一つは、やはり経営が非常に大事です。経営的なことで気が付いたことは、会計が自治体ごとに統一されてないことです。そこで国診協で会計を統一して、きちんと比較できるようにしてほしいと思います。

前川 ひな形をつくるということでしょうか。

澤田 そうですね。たとえば、他の医療施設で成功された優秀な事務長がいたら、その人もスーパーバイザーのようにつくつかの診療所を同じ会計基準で見てもらい、アドバイスをもらうようなことをしたほうがいいと考えます。

中村 会計は大事ですね。診療所部会でもそのことをきちんとやろうと思ったら、優秀な事務長を1人2人参加していただくことでしょうか。

澤田 そうですね。やはり会計基準を統一したほうが比べることができます。オープンにしたほうが新しい人も入りやすいと思います。

中村 さらにアピールしたいことは、われわれ国保直診に勤務する医師は公務員として安定した給与で、しかも自己実現が割と見えやすいところにあるということです。また、澤田先生が指摘された会計の問題については、何か相談があったときに会計に関して答えられるノウハウをわれわれが持っていなければなりませんね。

森 一方、医療技術の面で何もできなくて、地域から

も期待されてない国保も多分あると思います。そういうところに技術的な指導をしたらいいと考えます。

中村 われわれは意外と細かなノウハウを持っています。ちょっとした行動、小さな道具の使い方などの細かなノウハウの蓄積が本になるかもしれません。

7年前に名田庄で開催した蛸を見る会で、夜も深まった頃、私と白石吉彦先生（隠岐島前病院）や藤原靖士先生（当時、奈良市立月ヶ瀬診療所）が、へき地離島医療での“診療の小技”について飲酒した上でのパネルディスカッションをしていました。おそらくそれがきっかけで、白石先生は『離島発 いますぐ使える！外来診療 小ワザ 離れワザ』（中山書店）を刊行しています。やられた感じです（笑）。

以前、岐阜県和良歯科診療所の南先生と医科歯科連携について話をした中で、歯科医から見た医科の落とし穴についても相当あるようで、それだけで一つの本になるということでした。そういう小さな積み重ねを、メーリングリストを使って情報収集してまとめていくことが必要かと思います。

われわれから発信して機関誌『地域医療』に載せるということや学術委員会にお願いして、全国国保地域医療学会などで診療所部会としての発表もあっていいと思います。とりあえずメーリングリストはできていますので、私が最初の発信をするように頑張りたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。

全員 ありがとうございました。

（座談会収録日：平成29年2月26日）